

## 2020年、島根県立農林大学校【短期養成コース】を新設！

# 『イチから農業はじめるなら島根!!』

## —進化し続ける農林大学校とその卒業生の“いま”に迫る—

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる

島根\*創生  
SHIMANE SOUSEI

『神々のふるさと』と呼ばれ、出雲、石見、隠岐の3つの地域からなる島根県。

人口は(令和2年4月県推計人口)66万8162人と、47都道府県のなかで46位。この島根県で、いま移住者(U・I・Jターン)がじわりじわりと増えています。

10～40代の県外出身者や島根県出身者が、なぜいま島根県をめざすのか、島根へ戻ってくるのか。本レターでは、U・Iターンした人たちの仕事・暮らし・想いといったリアルな声を聞き、“しまね時間”の現在・未来をお伝えます。

「島根県へ移住する——そのリアル物語」第1回は、島根県立農林大学校 農業科 安達浩美部長、同科果樹専攻 内田芳朋 准教授と、小山佳代子 助教を訪ね、**農業未経験から自営就農(農業経営者として独立する)までの基本ステップや受け入れ体制**について教えてもらいます。

そして同校を卒業後ぶどう生産を営む農家・田代稔さん、小平亮介さんを訪ね、「**島根で農業を生業にして生きる**」と決めるまでの**設計図、ビジョン、暮らし、「島根にきてよかったな」と思う瞬間……**などなどを聞きました。

### Topics 『進化し続ける島根県立農林大学校』

- 確実に就業・就職できる
- 安く学べる・安く暮らせる
- 午前が講義/午後が実習で即戦力がすぐに身につく
- いま注目されているスマート農業も習得可能
- 自営就農に特化した就農準備コース
- もっと早く就農したい！短期養成コース新設
- もうひとつの選択肢、島根県「担い手育成経営体」

### Topics 『広大なぶどう畑を営む2人の卒業生』

- 島根県立農林大学校の強み、バックアップ体制
- 自分に適した空き農地を持てたワケ
- ぶどう畑仕事の一日、休みは？ オフはなにしてる？
- 島根で暮らしながら感じる幸せな瞬間
- 今後の目標、島根での自営就農をめざす人たちへ



左から内田芳朋 准教授、  
小山佳代子 助教、安達浩美 部長



左から小平亮介さん、田代稔さん

<取材に関するお問い合わせ先>

島根県 政策企画局 広聴広報課 広報戦略スタッフ 福岡

TEL : 0852-22-5757 / Mail : fukuma-takeshi@pref.shimane.lg.jp

### ご参考

島根県への移住・定住の総合相談窓口——ふるさと島根定住財団 <https://www.teiju.or.jp/>  
しまね就農支援サイト——しまね農業振興公社 <https://center.agri-shimane.or.jp/>

# 農業経営者として独立するための最短ルート！

## 『進化し続ける島根県立農林大学校』

### —短期養成コースと多彩なサポート—

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる

島根\*創生  
SHIMANE SOUSEI

「島根県のおだやかな風土のなかで、農業を仕事にして暮らしたい」

そんな願いを叶えてくれる“はじめの一步”が、島根県立農林大学校。

松江から西へ60km、大田市波根町にあるここ島根県立農林大学校には、他県にない独自の就農コースが設けられています。

就農には大きく2種類あります。それは、栽培に加え自ら経営も行う「自営就農」と農業法人(企業)にて栽培を担う「雇用就農」。

島根県立農林大学校 農業科は、卒業後すぐに自営就農する卒業生を多く送り出す学びの場として注目されています。

ここで、農林大学校 農業科が、「島根で農業を仕事にして暮らしたい」と思う人たちに支持されている理由に迫ります。

#### 確実に就農できる

自営就農にむけて農業科では、市町村包括的就農業パッケージにもとづくリースハウスや空きハウス斡旋制度、農業次世代人材投資資金(経営開始型150万円×5年間)など支援制度が充実しています。

島根県の就農パッケージは、就農希望者が、相談→研修→移住→就農のすべてのステップで、総合的に支援を受けられる応援体制のこと。この就農パッケージと島根県立農林大学校が密接に連携し、「すぐに自営就農できる」を実現させています。



#### 安く学べる・安く暮らせる

農林大学校は入学検定料2200円、入学料5650円、授業料月額9900円。県立高校と同額。エアコンやWi-Fiを完備した個室の寄宿舎(学生寮)は、月額1万円前後。健康的な食事を出す学生食堂もあります。

#### 午前は講義/午後は実習で即戦力がすぐ身につく

農林大学校の一日は、午前に座学(講義)、午後が実習(実技)という時間割がほとんど。

農業科には、有機農業・野菜・花き・果樹・肉用牛の各専攻があり、

専攻によってはピニールハウス1棟を1人で責任管理するといった実践に即したプログラムで、

即戦力を身につけられます。



#### いま注目されているスマート農業も各種完備

自動操舵トラクター、ドローンによる病害虫防除、リモコン除草機、ICT対応ハウス、環境モニタリングなども各種採用し、遠隔監視や自動環境制御の分野についても学ぶことができます。

#### 自営就農に特化した就農準備コース

島根県立農林大学校では、農業科(2年コース)に自営就農を目標とした就農準備コースを

2021年に設立予定。2年間で栽培に加えて農業経営も学ぶべく、基礎講義のほか、

農業新技術(スマート農業)やマーケティング・流通、会計・ファイナンス、マネジメントなどの

プログラムを用意。就農にあたっては在学中から農地確保、機材整備、就農計画作成などを

市町村や農協・農家など各関係機関と連携してサポートします。



#### もっと早く就農したい！短期養成コース新設

さらに、2020年には短期養成コース(1年コース)を新設。卒業後すぐに島根県内の農業経営者となることをめざす社会人経験者などを対象にした個別カスタム型カリキュラムで、就農準備コース同様、栽培+経営に必要な知識・技術を短期間で身につけられるコースです。入学前に県内市町村と相談して就農予定地を決めて就農ビジョンを確定させるうえ、予定地での実践研修も行うため、移住～研修～就農までの流れが明確。卒業後すぐの就農に向けて安心して学ぶことができます。

#### もうひとつの選択肢、島根県「担い手育成経営体」

島根県には、独立・自営就農をめざす研修生を一時的に雇用し、働きながら独立に向けて学ぶことができる法人等(担い手育成経営体)が県内に19あります。卒業後、まずはこの19の経営体に就職し、いずれ自営就農をめざす人も少なくありません。

#### ご参考

島根県立農林大学校—— <https://www.pref.shimane.lg.jp/norindaigakko/>

島根県への移住・定住の総合相談窓口——ふるさと島根定住財団 <https://www.teiju.or.jp/>

しまねUIターン総合サイト——くらしまねっと <https://www.kurashimane.jp/>

# 農林大卒業後すぐに農地を得て自営就農へ！

## 『広大なぶどう畑を営む2人の卒業生』

—母校の強み、農業経営者の“いま”、そして島根暮らしに感じる幸せとは—

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる

島根\*創生  
SHIMANE SOUSEI

島根県立農林大学校 果樹専攻で学び、実際にぶどう畑(リースハウス10連棟)を持ちながら、独立し農業経営者(自営就農)の道へと歩み始めた人たちがいます。小平亮介さん(21歳)と田代稔さん(37歳)。

### 小平 亮介さん

大阪府出身。大阪の農業高校を卒業し、島根県で水稻栽培(稲作)をしていた叔父の姿と、島根県の豊かな自然に惹かれ、島根県立農林大学校 農業科果樹専攻(2年)に入学。卒業後は、田代さんと同じ出雲市内のぶどう畑をひとりで管理し、初のぶどう出荷に向けて着々と整備を進めている。

### 田代 稔さん

東京都出身。東京の農業高校を卒業し、東京でシステムエンジニアとして働くうち、農業への思いが再び湧き出し、就農フェアなどで島根県の受け入れ体制に惹かれ、島根県に移住(1ターン)。妻が島根県出身ということもあり、島根の風土にはすぐに馴染んだという。2人の子を育てるパパでもある。



小平さん(左)、田代さん(右)

**小平さん**：ぼくは島根県立農林大学校の**地域農業実習**でいろいろな農家に教えてもらうちぶどうの魅力に惹かれて、流通やマーケティングなども学んでいくうちに「島根県ブランドのシャインマスカットを育てる」と決めました。

**田代さん**：ぼくはぶどう畑を始めて3年目。ことし初めて、自分が育てたぶどうを全国へ出荷することができました。自分が育てたぶどうが市場に出回って売れて、食べてくれる人がいると思ったとき、そこで改めて**農業経営者にやっとなれたと実感**しました。

**小平さん**：「この品種で農業経営者になる！」と思う品目や品種が見つかるのが、**県立農林大学校の最大の強み**ですね。

**田代さん**：そうですね。自分の栽培スタイルにぴったりあう品種を見つけられる。それは県立農林大学校の最大のメリットだと思います。ぼくはシャインマスカットやデラウェア収益性やブランド力などに可能性を感じて、島根県産シャインマスカットを東京などへ広めたいと思い、「サラリーマン時代の収入を超える」を目標にし、経営計画をたてました。

**小平さん**：この**広大な空きハウスも、県立農林大学校が紹介**してくれて、見学してみたら「ここでやる！」って即断しました。先生と学生の距離が近いのもいいですね。職員室にみんなで行って、いろいろ話を聞いて、お菓子をもらったり(笑)。学食もおいしいです。

**田代さん**：県立農林大学校は、農協(JA)や市町村とのつながりはもちろん、農家のさまざまな情報が集まってきます。**農林大学校に在学中に、この農地(ハウス10連棟)が空いていることを教えてくれました**。だから卒業と同時に、独立した農業経営者(自営就農)としての第一歩を踏み出せました。こうした自営就農サポートも、県立農林大学校の大きな強みだと思いますね。

**小平さん**：卒業後すぐにハウスを持って自営就農したので、**新卒で社長って感じ**ですね。まだ収入が十分じゃないですけど(笑)。

**田代さん**：このいまある農地を拠点に、うまく軌道に乗れば畑を拡大していきたいとも思いますね。

**田代さん**：収穫期や出荷などの忙しいときは夜明けから日が沈むまでずっと作業です。もう曜日感覚がなくなります。忙しいときは毎日毎日、休みがないです。収穫や出荷が終わると、長期旅行に行ったり、別の仕事をする人もいます。ぼくは高齢農家のあんぼ柿の栽培を手伝ったりしています。おもしろいですよ。

**小平さん**：ぼくは休みが取れる日は、農林大学校時代の仲間といっしょに温泉に行ったり。島根は温泉が各地にあるので、いろいろなところを訪ねて、身体を癒やして。バイクも好きなので、島根はツーリングもおすすめですよ。

**田代さん**：子どもと釣りに行くのも楽しいですよ。出雲大社方面に行って海釣り、宍道湖でハゼ釣りとか。夏の夜はホタルが飛び出し、

**小平さん**：ぼくは学寮にいたので、寮の仲間はいまも友だちでいてくれます。だから、専攻などは関係なく、みんな仲良しですね。

**田代さん**：ぼくは通学していたので、他専攻の仲間は少ないですが、先日、**近くで酪農している肉用牛専攻の同期と会って、飲んで、いろいろ情報交換**しました。満員電車にもまれた時代と違って、ゆっくり流れてる島根時間と仲間が幸せですね。

**小平さん**：ぼくも畑作業を終えて車で自宅に帰るとき、きれいな夕日に向かって運転している瞬間が、幸せですね。

**田代さん**：夜は月明かりで自分の影ができたり(笑)。島根の夜空は星が本当にきれいで、住んでよかったなって思います。

**小平さん**：とにかく島根県は過ごしやすいし、**自営就農をめざすなら島根県立農林大学校がベスト**。島根県はとくに自営就農のバックアップやフォローが充実しているので、ぜひ活用して、農業経営者が増えるといいなって思ってます。

### ご参考

島根県への移住・定住の総合相談窓口——ふるさと島根定住財団 <https://www.teiju.or.jp/>  
しまねUIターン総合サイト——くらしまねっと <https://www.kurashimane.jp/>